

長壽之術也。

〔隨意錄^四〕九月九日、登高、茱萸囊、菊花酒之事、以續齊諧記所記爲濫觴、然又西京雜記、戚夫人侍兒賈佩蘭、說在宮中時、見戚夫人侍高帝事、曰九月九日佩茱萸、食蓬餌、飲菊華酒云々、然則桓景、費長房以前、夙已有此事也、又晉周處風土記云、九月九日律中無射而數九、俗尙此日、折茱萸房、以插頭、言辟除惡氣而禦初寒。

〔續齊諧記〕汝南桓景、隨費長房遊學、累年、長房謂之曰、九月九日、汝家當有災厄、急宜去、令家人各作絳囊盛茱萸、以繫臂、登高山、飲菊酒、此禍可消、景如言、齊家登山、夕還、見雞狗牛羊一時暴死、長房聞之曰、此可代也、今世人每至九日、登高飲菊酒、婦人帶茱萸囊、蓋始於此。

〔西京雜記^三〕戚夫人侍兒賈佩蘭、後出爲扶風人段儒妻、說在宮中昔^略○中九月九日、佩茱萸、食蓬餌、飲菊華酒、令人長壽、菊華舒時、并採莖葉雜黍米釀之、至來年九月九日始熟、就飲焉、故謂之菊華酒。

〔荆楚歲時記〕九月九日、四民並籍野飲宴。

按、杜公瞻云、九月九日宴會、未知起於何代、然自漢至宋未改、今北人亦重此節、佩茱萸、食蓬餌、飲菊花酒云、令人長壽、近代皆宴設於臺榭。

〔公事根源 九月〕重陽宴

九日

昔は天子南殿に出御ありて節會を行はる、^略○中群臣に菊酒を給はり、大かたは五日の節會に同じ、御帳左右に茱萸の囊をかけ、御前に菊瓶をおく、または茱萸の房を折て頭にさしはさめば、惡氣をさるといふ本文あり、むかし費長房といふ仙人、汝南の桓景にかたりていはく、九月九日なんちが家災有べし、茱萸の囊をぬいてひちにかけ、山にのぼりて菊酒をのまば、この災きゆべしと申ければ、其日にいたりてをしへのごとくせしかば、その身はつゝがなくして、家中の雞犬羊ことごとく死たり、かやうのくのう侍るによて、けふは菊酒をのむといひつたへたり。